

知恵と工夫により  
新事業で頑張っている中小企業

# 株式会社 タケックス・ラボ

会社名	株式会社 タケックス・ラボ
代表者名	代表取締役 清岡 久幸
創業(設立)	平成14年2月(2002年2月)
従業員数	14名
資本金	177,154,000円
売上高	334,200千円(2009年7月期予想)
所在地	〒564-0063 吹田市江坂町1-13-48 インターネット江坂ビル3F
Tel/Fax	Tel 06-6821-2554 Fax 06-6821-4841
Email	info@takex-labo.com
業種	製造業
主な取扱品目	食品添加物、公衆衛生剤、建築資材

## 新連携事業内容

今回、認定を受けた新連携事業は、「竹資源有効利活用事業のコア技術となる竹抽出物製剤の市場拡大を目指した連携体事業」です。

具体的には、戦略商品となる竹抽出エキスを主成分とした除菌・消臭剤「タケックスクリーン」の需要創造・市場浸透を図ることを目的として、連携体を構成する各企業が、それぞれの強みとする開発・製造・物流・販売の各プロセスを担い、事業目標の達成を目指しております。

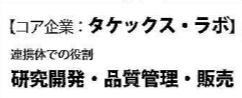
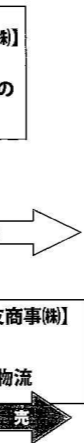
## 1. 新事業活動の内容

本連携体事業は、コア企業が長年の孟宗竹の用途開発研究の中から表皮抽出物に着目し、基本製法特許を含む関連知財権を確保し、実用化してきたものであり、近年、広範囲の細菌に対する抗菌性やノロウイルス対応力等、優れた付加機能を検証強化した商品それぞれ製造力及び販売力の経営資源を提供頂

## テーマ名 竹資源有効利活用事業のコア技術となる 竹抽出物製剤の市場拡大を目指した連携体事業

く連携企業とともに、新連携事業として市場拡大を目指し取り組む事業です。

本連携体で市場拡大を目指し推進する商品は、孟宗竹表皮を分離採取し有効成分をエタノール抽出したモウソウチク抽出物を主成分とする医薬部外品(取得準備中)及び食品添加物製剤です。



連携体の構成

## 2. 新連携事業

### 背景

タケックス・ラボは、竹を「機能性資源」ととらえ、資源として無駄なく高活用することを使命としています。この理念のもとで1本の竹のあらゆる構成部位が持っている機能を余すことなく機能性素材へと変換する技術開発を達成させる事

### 現状

平成20年3月24日に厚生労働省と近畿経済産業局による共同認定を受け、販促活動や「タケックスクリーン」の競合優位性を明確化するための学術的エビデンスの拡充補強を図りました。その結果、「竹抽出物の抗ウイルス(ノロウイルス及びトリインフルエンザウイルス)効果と作用メカニズムの考察」として、大阪府立大学獣医学部、鳥取大学農学部付属鳥由

来人民通感染症疫学研究センター、タケックス・ラボの共同研究成果として「日本食品化学会」に発表することが出来ました。これにより「タケックスクリーン」の需要が格段に向上しました。

### 今後の展開

本制度の認定を受けて、大きく変わったことは認知度です。補助制度を活用し、展示会への出展やモニター制度により商品を使用していただく機会の創出、ホームページの整備などを行い、認知度向上に注力しました。

一方で学術的エビデンスを充実させ、競合優位性を明確化させたことで新型インフルエンザに対するパンデミック対策品としての新たな市場が開け、今までは厨房での業務用としての展開に注力しておりましたが、新型インフルエンザ発生時の企業備蓄用やコンシューマー市場へのOEM商品として、多くの引き合いを頂いております。

## 清岡社長からのコメント

弊社は天然素材である「竹」を原料とした、除菌・抗菌・消臭剤「タケックスクリーン」を多岐に亘る業界市場を販売ターゲットとしています。具体的には、ホテル・給食業界・病院・介護施設・学校・老人ホーム等、お使いいただいているお客様は3000件を超え、「安心・安全・健康」をテーマに販売導入活動しております。認定に至る過程において、独立行政法人中小企業基盤整備機構の新連携支援プロジェクトマネージャーの皆様から事業計画立案におけるブラッシュアップを受けました。そして事業の成功要因およびリスク要因に関する多くの建設的意見、多方面からのご質問やご指摘、アドバイスなどを頂きながらの事業計画立案となりました。結果、計画内容を熟考する機会が得られ精度を向上することが出来ましたことから、これは貴重なプロセスであったと感謝しております。



## 中小企業基盤整備機構の担当マネージャーからのコメント

長年の研究開発を通じて竹の持つ特異な性質、機能を引き出し、その全てを資源として活用していく事業ビジョンの下、新連携事業としては物流販売の大手企業の賛同参加も戴くとともに、並行して対ノロウイルス効果等の検証などを含め商品の付加価値を高めつつ事業を推進しております。事業計画のブラッシュアップ過程においては、厳しい指摘、改善要請議論にも熱心にお応えいただきましたが、事業開始後の経済環境変化に対応した経営改善にも取り組んでおられ、今後の着実な事業展開に期待しております。

プロジェクトマネージャー 菊谷 敏